

## 1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

<b>事業名</b>	中山間地域総合整備事業(国補)		<b>事業箇所</b>	笛吹市芦川町		<b>地区名</b>	芦川		<b>事業主体</b>	山梨県	
<b>(1)事業着手年度</b>	H16年度		<b>(2)事業期間</b>	H16年度~H23年度		<b>(3)完了後経過年数</b>	5年		<b>(4)総事業費</b>	1,161百万円	
<b>(5)事業着手時点の課題・背景</b>						<b>(8)事業位置図等</b>					
<p>本地区は、山梨県の甲府盆地と富士山麓を分ける御坂山塊の中央部標高600m~900mにあり、甲府盆地と富士五湖地域間を結ぶ富士河口湖芦川線沿いの山間部に位置している。</p> <p>集落(旧芦川村)は芦川渓谷沿いに分散して形成し、主産業の農業は階段状に拓いた僅かな平地を利用した稲作や畑作が行われている。</p> <p>本地域は中山間地域という立地条件から零細農家が多く、生産基盤整備の遅れや過疎化の進展などによる労働力の低下に伴い耕作放棄地が増えつつあった。</p> <p>一方、平成21年に富士河口湖町と笛吹市芦川町を結ぶ『若彦路』が整備され、この道路を最大限に活かし、都市住民との交流を通じた活性化や農業振興を図り、併せて営農意欲の向上や高齢者の生きがいを創出するため、農業生産、農村生活、都市農村交流など地域活動の場となる基盤の整備を総合的に実施した。</p>											
<b>(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果</b>											
(事前評価未実施)											
<input type="checkbox"/> <b>主要目標</b> ・中山間地域等の農村生活・生産機能の向上											
<input type="checkbox"/> <b>副次目標</b> ・農業用排水能力の向上											
<input type="checkbox"/> <b>副次効果</b> ・農林産物の販売促進											
<b>(7)整備内容(目標達成の方法)</b>											
用排水路(2路線) L=288m、畑かん貯水槽N=1カ所 農道(5路線) L=2,752m 農業集落道(1路線) L=539m 農業集落排水(3路線) L=584m 集落防災安全施設(2箇所) N=2基 活性化施設(1棟) A=260㎡ 交流施設基盤(1箇所) A=2,640㎡ 鳥獣害防止施設 L=19,953m											

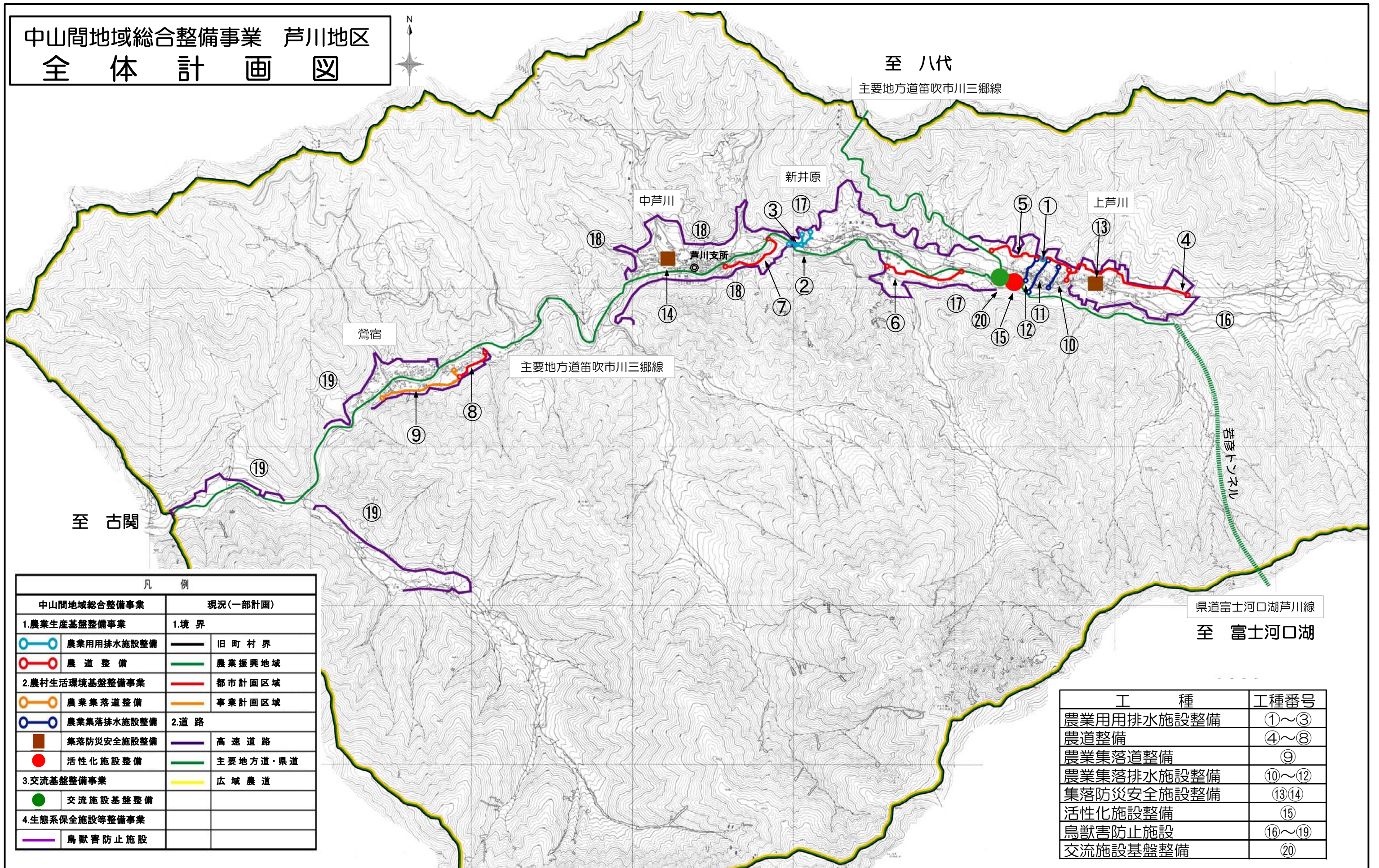
2. 評価シート（1）

<p><b>(1)事業貢献度</b> &lt; (良) ・ 不良 &gt;</p> <p><b>(理由)</b>                  用排水路、農道が整備されたことにより、農作物の品質向上、運搬時間が短縮されると共に、施設管理が容易となり、農業経営の改善が図られた。さらに活性化施設を利用した、特産品の加工・開発が活発になった。</p> <p><b>① 主要目標 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積当たり農業所得の増加額</td> <td>1,581千円/ha</td> <td>1,566千円/ha</td> </tr> <tr> <td>施設当たり生活環境施設受益者数</td> <td>183人/力所</td> <td>283人/力所</td> </tr> <tr> <td>交流施設当たり利用者数</td> <td>40人/日/施設</td> <td>92人/日/施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価                  ・農業所得の増加額が、評価基準値1,203千円/haを上回っている。                  （市場出荷に加え、直売所での販売が促進されたことにより、農業所得が増額となった。）                  ・生活環境施設受益者数が、評価基準値241人/力所を上回っている。                  ・交流施設当たり利用者数が、評価基準値55人/日/施設を上回っている。</p> <p><b>② 副次目標 農業用排水能力の向上</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設老朽度（残耐用年数）</td> <td>-10年</td> <td>25年 ※1</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.00</td> <td>1.60 ※2</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価                  ・施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。                  ※1 施設老朽度 = 施設の耐用年数(30年) - 完成時からの経過年数(5年)                  ・用排水能力向上率が基準値1.00以上を満たしている。                  ※2 用排水能力向上率 = 計画用排水能力(0.16m<sup>3</sup>/s) / 既存用排水能力(0.10m<sup>3</sup>/s)</p> <p><b>③ 副次効果</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林産物の販売促進</td> <td>受益地内で生産される農作物を関連事業で整備した直売所で販売することで、農家所得の増加につながっている。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>④ その他事業効果の発現状況</b>                  ・直売や交流イベントを通じ、都市住民の来訪者が増加し、地域の交流が図られている。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	面積当たり農業所得の増加額	1,581千円/ha	1,566千円/ha	施設当たり生活環境施設受益者数	183人/力所	283人/力所	交流施設当たり利用者数	40人/日/施設	92人/日/施設	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	施設老朽度（残耐用年数）	-10年	25年 ※1	用排水能力向上率	1.00	1.60 ※2	項 目	内 容	農林産物の販売促進	受益地内で生産される農作物を関連事業で整備した直売所で販売することで、農家所得の増加につながっている。	<p><b>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化</b> &lt; (有) ・ 無 &gt;</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,092百万円</td> <td>1,161百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>H16~H21</td> <td>H16~H23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>614百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>733百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.19</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>819百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>856百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している。</p> <p>(要因変化の分析)                  ・総事業費：町村合併による施設の利活用計画見直しにより用地整備等の事業費が減となった。                  ・工 期：用地取得の遅延などによる工期の延長</p> <p><b>(3)事業実施による環境の変化</b></p> <p><b>① 自然環境への影響</b>                  ・基盤整備を進めたことで、耕作放棄地の発生防止につながり、地域の良好な農村景観が保たれている。</p> <p><b>② 生活・居住環境等への影響</b>                  ・活性化施設を拠点に、婦人会や高齢者が、販売、加工、イベントに参加するなど、地域に活力が生まれてきている。                  ・集落道、集落排水路、防火水槽など地域に密着した施設の整備によって地域生活の安全性や利便性が向上している。                  ・鳥獣害防止施設の設置により、イノシシ等の出没がなくなり、安心できる生活環境が整えられ、農作物への被害が減少した。</p> <p><b>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</b>                  ・なし</p> <p><b>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</b></p> <p><b>① 社会経済状況の変化</b>                  ・なし</p> <p><b>② 関連計画・関連事業の状況の変化</b>                  ・なし</p> <p><b>③ 事業環境等の変化</b>                  ・なし</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,092百万円	1,161百万円	工 期	H16~H21	H16~H23	経済効率性	費用	614百万円	便益	733百万円	B/C	1.19			819百万円			856百万円			1.04
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																																	
面積当たり農業所得の増加額	1,581千円/ha	1,566千円/ha																																																	
施設当たり生活環境施設受益者数	183人/力所	283人/力所																																																	
交流施設当たり利用者数	40人/日/施設	92人/日/施設																																																	
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																																	
施設老朽度（残耐用年数）	-10年	25年 ※1																																																	
用排水能力向上率	1.00	1.60 ※2																																																	
項 目	内 容																																																		
農林産物の販売促進	受益地内で生産される農作物を関連事業で整備した直売所で販売することで、農家所得の増加につながっている。																																																		
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																																	
総事業費	1,092百万円	1,161百万円																																																	
工 期	H16~H21	H16~H23																																																	
経済効率性	費用	614百万円																																																	
	便益	733百万円																																																	
	B/C	1.19																																																	
		819百万円																																																	
		856百万円																																																	
		1.04																																																	

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>
<p>(理由)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基盤整備が進んだことにより、作物の収量の増加やそれらの作物を活用した加工品の直売所での販売が促進された。</li> <li>・ 加えて都市住民との交流の場として本事業で整備した施設を活用し山村集落の活性化が図られるなど、十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</li> </ul> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時期： 年度</li> <li>・ 方法：</li> </ul> </p> </p>	<p>(理由)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>(具体的反映策)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> </p></p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>
<p>(理由)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>(具体的改善策)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>(既の実施した改善策の内容と効果)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> </p></p></p>	<p>(理由)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>(具体的反映策)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> </p></p>
	<p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土留め構造物に現地で多く用いられている石積みを採用することで、景観の保全にも寄与している。</li> </ul>

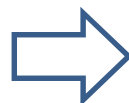
3. 添付資料シート(1)





着工前  
幅員が狭く、未整備区間もあり、農機具の搬入や脱輪の危険など通作に支障をきたしていた。

①農道



完成後  
農道の整備により、農耕車が容易に進入できると共に、すれ違いが可能となるなど、安全性と農作業の利便性が向上している。



着工前  
急傾斜地に石垣を設け平地を造り、集落が形成されているため、傾斜に伴う急勾配の水路は、洗掘や溢水などの被害が発生し、防災上の不安を抱えていた。

②集落排水路



完成後  
水路整備により流下能力が高まり、洗掘の恐れや溢水による被害が解消されている。



ふれあい交流広場

③交流施設基盤整備  
活性化施設



駐車場

交流施設基盤整備  
都市住民との交流の拡大に寄与し、地域活性化の新たな拠点として利用されている。



活性化施設



農産物直売所

活性化施設  
地元農産物を利用した加工品の開発が進み、併設の芦川農産物直売所では、訪れる都市住民への販売が促進されている。



着工前  
イノシシによるさと芋の掘り起しや踏みあらしによる被害状況。

足跡



④鳥獣害防止施設



完成後  
鳥獣害防止施設の整備により、イノシシによる被害が軽減され、営農意欲の向上につながっている。